「浜を守る！ぎょさい総加入運動」最終年度がスタート！

～ セーフティネットの柱として、「積立ぷらす」と共に積極的な活用を ～

「浜を守る！ぎょさい総加入運動」の2年目にあたる平成19年度実績が確定し、「ぎょさい」史上初の4,000億円台となる4,053億円(共済金額)の加入実績を達成することができました。昨年度の加入推進における関係各位のご支援とご協力につきましては、改めて感謝を申し上げます。

一方、19事業年度における共済金の支払状況は、のり養殖業(特定養殖共済)に対する支払が比較的大きかったものの、大型クラゲや台風・低気圧等による被害は少なく、赤潮被害も九州、四国の一部に限定されたことから、例年に比べて低位の水準となりました。

19年漁期にかかるのり養殖業の支払実績については、7月支払をもって確定することになりますが、現在のところ40億円を若干下回る見込みとなっています。

この支払見込額は、過去最高の41億円(平成14年度漁期)に次ぐ大型の支払となりますが、主な事故原因は、瀬戸内海地域での降雨量不足等に伴う栄養塩不足が引き起こした極度の色落ちによるのりの品質低下と減産によるものです。

最近では海水温の上昇等により、のり養殖業だけではなく魚類・貝類養殖業の事故発生も増加の兆しが認められることから、今後の養殖業における災害の多発が危惧されるところです。

そのような状況のもと、本年度は「浜を守る！ぎょさい総加入運動」の最終年度となり、4,250億円の加入計画を掲げて事業が展開されています。この4月からスタートしました「積立ぷらす」、また運動スタートの18年度から実施されている「漁業共済基盤強化事業」や漁協振興財団が実施する「日韓・日中対策事業」の有効活用はもとより、異常気象に対する漁業災害の備え・漁業経営のセーフティネットとしての「ぎょさい」役割を充分アピールし、目標達成に向けて加入推進の取組を行うこととしております。

(平成20年5月15日 運動情報版より)